

急速に普及する電子・加熱式タバコ

◆世界で急速に普及する電子タバコ、日本では加熱式タバコが主流に

電子タバコや加熱式タバコが急速に普及している。電子タバコとは「ニコチン、香料、その他の化学物質を送達するよう設計されたバッテリー起動型の製品」をいう。日本ではニコチンを含むものは医薬品とされ、現時点で承認されているものは無く、ニコチンを含まないものが市販されている。一方、加熱式タバコ（日本では、電子タバコと混同されることがある）は、「タバコ葉を蒸気で加熱することにより、タバコ葉に含まれているニコチンなどの成分を吸引する製品」である。英国の調査会社ユーロモニターによると、世界の電子タバコ市場は、2014年に約7,000億円、17年に1兆円を超えると予測されている。一方、加熱式タバコはiQOSを販売しているフィリップモリスによれば、日本を中心に普及（98%を日本で販売）しており、17年7月時点でタバコ製品全体の10%を超えるシェアを占めており、今後も高い成長が期待されている。

表 電子タバコと加熱式タバコの違い

新規タバコ製品群	タバコ葉の有無	規制法	代表的製品
電子タバコ(ニコチン吸入)	含まない	薬機法 ^(注)	日本では承認されていない
電子タバコ(非ニコチン)	含まない	無し	DR.VAPE VITAFUL 他
加熱式タバコ	含む	たばこ事業法	PloomTECH iQOS、glo

(注)「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」

(国立がん研究センター資料他を参考にARC作成)

◆健康や受動喫煙に対する配慮から電子・加熱式タバコを選択

電子・加熱式タバコのメリットとして ①従来のタバコに比べタールなどの有害成分の摂取が少ないこと ②煙やタバコ臭が少ないこと ③受動喫煙の影響が少ないとされていること ④本格的な禁煙に役立ちそうなこと ⑤喫煙できない場所での使用が一部可能であることが挙げられる。しかし一方で、①未成年者をタバコや麻薬などへ誘導するゲートウェイとなること ②ホルムアルデヒドなど

のニコチン以外の有害物質が検出されていること ③従来のタバコとの二重摂取の可能性などがあることなどが、指摘されている。健康への害が少なそうだというイメージが広がり、急速に普及している一方で、本当に従来のタバコに比べて害が少ないのかという点に関して、信頼できる研究は少ない。

◆ニコチンの入っていない電子タバコは禁煙には役に立たないとする報告

17年12月、国立がん研究センターは、禁煙方法として電子タバコ（非ニコチン）の有効性は低いとする研究結果を発表した。それによると、電子タバコを禁煙方法として使用した人は、使用しなかった人よりも禁煙できた人が38%少なく、逆に電子タバコが禁煙の成功確率を約1/3低下させていることが示された。禁煙には、ニコチンガムやニコチンパッチの方が有効であるとしている。欧米では、ニコチン入りの電子タバコ（日本では未承認）は従来のタバコより害が少なく、禁煙に役に立つとされ推奨されている。

◆加熱式タバコは、有害成分が検出され規制の対象に

加熱式タバコは煙も臭いも少なく、害の少なさを販売会社がさかんに宣伝している。しかし、厚生労働省研究班による報告では、加熱式タバコの主流煙にタール成分がほとんど含まれていない一方、従来のタバコと同レベルのニコチンや、2割程度のアルデヒド類が含まれることが明らかとなった。また、換気がない環境で多量に吸うと、室内のニコチン濃度が安全な水準を超えた。さらに、受動吸引した人に、鼻やのどの痛み、気分不良などの症状が認められた。

日本禁煙学会と日本呼吸器学会は、電子・加熱式タバコは使用者の健康に悪影響をもたらし、また使用者が出したエアロゾルは受動吸引による健康被害を生じる可能性があるとし、タバコ代替法として推奨できないとした。17年12月、厚生労働省は加熱式タバコもタバコ規制の対象とする方針を決め、病院や学校では使用禁止とし、飲食店でも原則禁止とした。しかし、健康への影響が確定していないことから、今回の決定は科学的評価が出るまでの当面の措置とした。

電子・加熱式タバコは、従来のタバコより健康への害が少ない可能性が高い。今後、科学的な検証を踏まえたうえで、日本でも、次善の策として、電子・加熱式タバコの在り方を考えるべきだろう。

【毛利光伸】